2007.12
Vol.36

大好き いばらき

多くの方々に、CO_2削減を目指す「私のチャレンジ宣言」に登録いただきました。
（大好き いばらき 県民まつり・ねんりんピック茨城2007会場にて）

目次

●大好き いばらき 県民運動表彰式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
●大好き いばらき
夢のある家庭や子育てができる社会を築くシンポジウム・・・・・・・・・3
特集 「大好き いばらき エコライフ運動」実施中 ・・・4～5
・私のチャレンジ宣言　・エコライフ実践報告（茨城町立梅香中学校）
●「いばらき教育の日」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
●花いっぱい運動の集い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
●ネットワーカー活動紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
・常陸大宮市ネットワーカー協議会　・古河市ネットワーカー協議会
●大好き いばらき 県民運動活動紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
・霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2007　・大好き いばらき 県民まつり・ねんりんピック茨城2007
・ひぬま流域クリーン作戦　・茨城県表彰（小美玉市納場地区コミュニティ）
●INFORMATION ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

大好き いばらき 県民運動

各地域で行われている青少年の健全育成・福祉・生活環境など、さまざまな分野での活動を、県民や団体、企業、行政が手をつないで支えあい、やさしさとふれあいのある茨城を創っていく運動、それが「大好き いばらき 県民運動」です。

大好き いばらき 県民運動 表彰式

11月29日（木）常陽藝文センター7階 藝文ホールで、
第35回 花と緑の環境美化コンクール、
第18回 大好き いばらき 作文コンクールの表彰式を開催しました。

第35回 花と緑の環境美化コンクール

茨城県及び大好き いばらき 県民会議では、地域住民及び児童・生徒の環境美化に対する関心・意欲を高めることを目的に、「花と緑の環境美化コンクール」を実施し、花いっぱい運動で成果をあげている地域・団体・職場・学校を表彰しました。

35回目を迎えた今年度は、全部で1,207団体・学校の参加があり、市町村審査、地方審査を経て中央審査に推薦された76団体・学校を表彰するとともに、平成15年度から5年間「花と緑の県民運動モデル指定」されていた8団体・学校に感謝状を贈呈しました。

岡田三美中央審査委員長（大好き　いばらき　県民会議理事）からは「花づくりは人づくり、そして地域づくりです。皆様の花いっぱい運動を起点として、『やさしさとふれあいのある茨城づくり』の輪が県内全域にますます広がっていくことを期待します」との講評がありました。

参加者は表彰を受けた喜びとともに、花いっぱい運動への意欲をさらに高めていました。

茨城県知事賞

フラワーロードの部

筑西市 成田北自治会

地域の部

常陸大宮市 寿会

団体・職場の部

筑西市 明野公民館

学校の部

水戸市立千波小学校

学校の部

常陸太田市立北小学校

学校の部

鉾田市立旭東小学校

学校の部

稲敷市立古渡小学校

学校の部

古河市立釈迦小学校

第18回 大好き いばらき 作文コンクール

茨城県知事賞

「僕の家族はUターン？」
浅野（あさの）　万大（たかひろ）さん
（水戸市立緑岡小学校３年）

「ぼうじぼっくり」
木済（きさい）　孝徳（たかのり）さん
（桜川市立坂戸小学校５年）

「私が発見！いばらきの文化」
坂入（さかいり）　清花（さやか）さん
（筑西市立下館南中学校１年）

第18回大好き　いばらき　作文コンクールでは、平成20年に開催される第23回国民文化祭・いばらき2008のプレイベントのひとつとして「わたしが発見！いばらきの文化」をテーマに県内の小・中・高校生から作文を募集しました。420の学校から6,241点の応募があり、その中から49点が表彰を受けました。

茨城県や自分たちの住む地域について、家族や地域の方から話を聞き、お祭りや言い伝え・伝統文化などをとおして「いばらきの文化」を発見し紹介してくれました。「いばらきの文化」を知り改めて見つめ直すことで、「いばらきの文化」が茨城県の自慢としていきいきと書かれていました。

大内善一審査委員長（茨城大学教育学部教授）からは、「児童生徒の皆さんの一人ひとりがこの作文コンクールをきっかけとして、私たちがいばらきの文化を繋いで行くのだという気持ちを持ち続けていただくことを願っております」との講評がありました。最後に知事賞を受賞した3名が作品を朗読し、会場から大きな拍手がおくられました。

なお、受賞作品をまとめた「作文コンクール入賞作品集」は、県内小・中・高校等に送付するほか、ホームページにも掲載いたしますので、ぜひご一読ください。

子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム茨城大会

平成19年度　大好き いばらき

夢のある家庭や子育てができる社会を築くシンポジウム

11月23日、県民文化センターで、内閣府と県が主催し、大好き いばらき 県民会議などが共催する“子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム”が開催され、県民会議が担当した分科会に、103人の参加をいただきました。

今回は、内閣府少子化担当大臣の上川陽子さんにご出席をいただき、世代を超えた人々が集い、結婚や子育てについて感じている不安や悩み、生命の大切さを、家族や地域の方との絆を通して考え意見交換を行い、それぞれが抱えている問題の糸口を見つけ前向きに結婚・子育てにつながるものとなりました。

開会後、「子育てを支える社会（地域）の力」と「地域で育む生命の大切さ」の2つのテーマに沿って、上川大臣にも参加していただき、短い時間でしたが活発な意見交換がなされました。

その後の全体会では、働く環境の見直し（ワークライフバランス）と企業の意識改革の必要性、男性の育児休暇取得率引き上げなどの子育て支援の運動を官民一体となって取り組むことの重要さ、また、子どもに対する愛情と家族の絆を忘れずに生活することの大切さについて発表されました。

テーマⅠ　子育てを支える社会（地域）の力

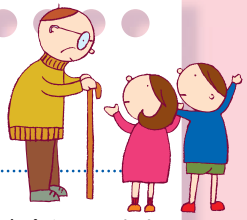
～私にできる子育て支援・私が欲しい子育て支援～

テーマⅠでは、各地域の子育て支援の現状、個人やNPO法人で子育て支援活動を行う人たちの活動内容や問題点、厳しい現実などの意見が出されました。

活動報告では「子育て中の親子を集めて、遊ぶ場所を作ろうと活動している」「乳幼児の野外遊びを行っている」「子育てサロンや児童館、学童保育を開催している」などの報告とともに、活動の場は「親同士の交流の場」「悩みや不安相談の場」になっているといった意見がありました。

問題点としては、保育士の不足、協力ボランティアの不足、自分の仕事と子育て支援、その両立の難しさ、子育て情報の過剰な氾濫、安全に遊べる遊び場（公園など）の不足、育児休暇を社会的に取り難い現実、男性への育児支援の体制が企業に無い（有っても活用されていない）等があがりました。話し合いの結果、「子育ての場が必要であるとともに個人・団体・企業・行政それぞれの情報交換が必要」「育児制度の浸透には行政も企業も一体となって取り組むべき」「子育てが楽しいと思える社会の基盤作り」「国の制度も必要」といった意見が出されました。

テーマⅡ　地域で育む生命の大切さ



～新しく生まれるいのち・家族の絆～

テーマⅡでは、生命というやや大きなテーマを設け、特に出生率が低下している現代社会の問題点と課題、今後の対策などについての意見が出されました。

現状の問題点としては、労働条件や時間の制約、家族環境などから「女性の再就職・職場復帰の難しさ」、「片親での子育ての難しさ」等が挙げられ、「ご近所との世代を越えた付き合い方が難しい」「家庭を取り巻く周囲からの子育て支援不足」等の理由もあり、子どもを持つことにマイナスイメージがあるという現状が浮かび上がりました。また、出産以前に「男女の出会いの場が少ない」という結婚や男女交際に関する地域的な問題、産婦人科や小児科の激減、子どもが自然体験できる場の不足といった物理的な問題も提起されました。

話し合いの結果、「地域で三世代交流事業を行い、世代を超えたコミュニケーションを深め、日本の良さを次世代に繋ぐ」「若者に対する国の支援策が必要」「教育の場に昔ながらの教えを取り入れる」「個々のコミュニケーション力を高める」といった意見が出されました。

みんなで広げよう！

現在565のグループや団体が実践中！

大好き いばらき エコライフ運動

大好き いばらき 県民会議では“もったいない”の気持ちを大切にしながら、県民一人ひとりが毎日の生活の中で、環境を大切にするという気持ちをもって行動し、その輪が広まるよう、昨年に引き続き、「大好き いばらき エコライフ運動」を推進しております。

あなたも仲間を誘って“エコライフ運動”に参加しませんか。皆で楽しみながら、エコライフの輪を広げていきましょう！

“エコライフ”実践報告

前号に引き続き、今回もエコライフ運動を推進している学校をご紹介いたします。

エネルギーを体感的に学ぼう！

～茨城町立梅香中学校～

風力発電設備は屋外照明に利用

屋根に設置された太陽光発電設備

茨城町立梅香中学校は、県内唯一のエネルギー教育実践校として様々な観点からエネルギー環境教育に取り組んでいます。

同校は、平成17年度に老朽化した校舎の建て替えにあわせて、文部科学省のエコスクールパイロット・モデル事業の認定をうけ、太陽光発電や風力発電の設備を整備しました。2基の太陽電池パネルで、毎日約20kwの電気が発電され、校舎内の電気はほぼまかなわれています。風力で発電される電気は、以前から暗くて生徒の登下校時に不便だった自転車置場の照明に利用されています。

また、今年度から経済産業省のエネルギー教育実践校の指定をうけ、エネルギーについての理解を深め、エネルギーについて総合的に考えるための教育、例えば「体感的エネルギー教育の実践」「省エネルギーの体験的活動」「節電・節水・ゴミの減量等の省資源活動」が行われています。

取り組みの一つは、環境委員会（1～3年生20名の生徒たち）が中心となって行っている「“ひとり一缶”募缶運動」です。エネルギーの無駄使いをなくすことと自分たちのボランティア精神を高めることをねらいとして生徒たちの提案で行われているもので、アルミ缶を回収し換金したお金でネパールに井戸を作るという壮大な目的を併せもっています。もちろん、資源の有効利用の観点からも「アルミ缶を1kg回収して再利用すれば、ボーキサイトを電解してアルミ缶を生産するよりも19.9kwhの節電につながる」ということを生徒一人ひとりが認識して活動を行っています。

“ひとり一缶”募缶運動の様子

もう一つの取り組みとしては、エネルギー消費を体感的に学ぶため電力調査を行っています。コンセントとプラグの間に専用の機器を挟むと、電気の使用時間や使用量、CO_2排出量などが具体的に表示されます。生徒ばかりでなく先生方にもエネルギーの容量に対する意識や節電への気配りが格段に高まり、町内の中学校で一番、節電＆節水が行われているという集計結果にも表れています。

このほか地球温暖化の大きな原因でもあるCO_2削減の取組みの一環として、去る4月には、NPO法人地球環境保全協会の正田利夫さんを招き、地球温暖化に関する講演会を開催し、エコ活動への意識高揚に繋がりました。

この機器を使い電力調査

「ものを大切にする」、「エネルギーを大切にする」、そんな心が、生徒や先生ばかりでなく地域の住民にも少しずつ芽生えています。

1人 1日 1kg

1人、1日、1kg CO_2削減

「私のチャレンジ宣言」に登録しよう!!

深刻な問題となっている地球温暖化！

地球温暖化解決のため、わが国は京都議定書で、2012年までに1990年比で6%の温室効果ガスの削減を約束していますが、2005年度時点では、逆に7.8%上回っており、温暖化防止対策をより一層強化する必要があります。

特に、家庭やオフィスなどでの温室効果ガスの排出量は、約40%増加していることから、温暖化を止めるために、私たち一人ひとりの取り組みが重要となっています。

このため、環境省では、本年度から、チームマイナス6%のホームページ内に特設サイトを設け、身近なところでできる地球温暖化を防止するためのチャレンジメニューから、“実践してみよう！”と思うものを選び、「1人、1日、1kgのCO_2削減」を目指して実践していただく、「私のチャレンジ宣言」を募集しています。

茨城県でも、大好き いばらき エコライフ運動の一環として、「私のチャレンジ宣言」への登録を推進しています。あなたも是非、チャレンジしてみませんか。

「私のチャレンジ宣言」への登録について

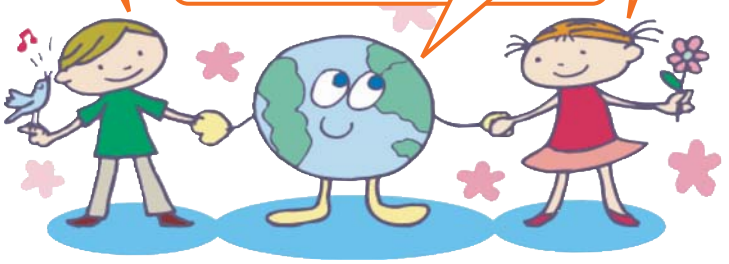
■チャレンジ宣言メニューの中から，あなたがチャレンジしようと思う項目をチェックして、大好き いばらき 県民会議に送って下さい。

■登録には下の3つの方法があります。
登録は無料です。

携帯電話から宣言する人は、下のバーコードからアクセスしてね！

パソコンや携帯電話から宣言できない人は、大好き いばらき 県民会議まで連絡してね。チャレンジ宣言メニューをお送りします。

パソコンから宣言する人は、http://www.team-6.jp/try-1kg/にアクセスしてね！



チャレンジ宣言メニュー

【温度調節で減らそう】		
□	夏の冷房時の設定温度を26℃から28℃に2℃高くする	83g
□	冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする	96g
【水道の使い方で減らそう】		
□	風呂のお湯を利用して身体や頭を洗いシャワーを使わない	371g
□	シャワーの使用時間を1日1分短くする	74g
□	風呂の残り湯を洗濯に使いまわす	7g
□	入浴は間隔をあけずに	86g
【商品の選び方で減らそう】		
□	古いエアコンを省エネタイプに買い替える	104g
□	古い冷蔵庫を省エネタイプに買い替える	132g
□	白熱電球を電球型蛍光ランプに取り替える	45g
【自動車の使い方で減らそう】		
□	アイドリングを5分短くする	63g
□	通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用する	180g
□	発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする	207g
□	加速の少ない運転をする	73g
【買い物とゴミで減らそう】		
□	買い物の際マイバッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	62g
□	水筒を持ち歩いてペットボトルの使用を削減する	6g
□	ゴミの分別を徹底し、廃プラスチックをリサイクル	52g

【電気の使い方で減らそう】		
□	冷房の利用時間を1時間減らす	26g
□	暖房の利用時間を1時間減らす	37g
□	主電源をこまめに切って待機電力を節約する	65g
□	ジャーの保温をやめる	37g
□	夜中にジャーの保温をやめる	37g
□	ご飯は保温するよりレンジ゛で解凍する	1g
□	電球（電球型蛍光ランプ゛）の点灯時間を短くする	2g
□	テレビを見ないときは消す（ブラウン管テレビ）	13g
□	使わないときは温水洗浄便座のフタを閉める	15g
□	温水洗浄便座の便座暖房の温度を低めに設定する	11g
□	冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする	3g
□	1日1時間パソコン利用を減らす（デスクトップ型パソコン）	13g
□	1日1時間パソコン利用を減らす（ノート型パソコン）	2g
【その他】		
□	太陽光発電を新規に設置する	670g
□	太陽熱利用温水器を新規に設置する	408g
□	屋上緑化を新規に導入する	107g
□	冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置する	19g
□	冷蔵庫にものを詰め込み過ぎない	18g
□	ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないように調節する	5g
□	やかんや鍋を火にかけるときは底の水滴を拭き取る	1g
□	食器を洗うときガス給湯器の温度を低く設定する	29g
□	給湯器を高効率給湯器（CO_2冷媒ヒートポンプ型）に買替える	607g
□	給湯器を高効率給湯器（潜熱回収型）に買い替える	208g

みんなで教育を考える

いばらき教育の日

11月1日は「いばらき教育の日」
11月は「教育月間」です。

近年、家庭や地域社会における教育力の低下、子どもたちの規範意識や公共心の欠如など様々な教育問題が発生していることから、社会全体で教育の重要性を再認識する事が強く求められています。

みんなで教育を考える

第8回「いばらき教育の日」推進大会

県民が教育尊重の気運を高め、学校・家庭・地域社会が連携して教育の充実と発展を図ることにより、明日の茨城を担う子どもたちの育成や、生涯にわたって、自ら学び、郷土を愛し、地域社会の形成に主体的に参画する人づくりに向けて、11月1日(木)「いばらき教育の日」推進大会が、県民文化センター大ホールで開催されました。

「あいさつ・声かけ運動」標語や優秀教員（ティーチャー・オブ・ティーチャーズ）の表彰式をはじめ、関西大学外国語教育研究機構教授の田尻悟郎先生に記念講演、地域での子どもたちの活動や子どもたちを見守る大人の取組などの実践発表などが行われ、県内各地から子どもたちを含めて、約1,500名の方々が参加しました。

記念講演では、田尻悟郎氏を招いて「人を育てる」をテーマに講演いただきました。

講演では、子どもの反抗は成長過程の大切なひとコマと受け止め、子どもを認め温かく見守ることの大切さや、しかるときも、子どもに考えさせたり、発言する機会を与え、納得できる「しかり方」の大切さなど、子どもの自立を促したり、「人を育てる」ために求められる姿勢について述べられました。

■記念講演

演題
『人を育てる』

講師
関西大学
外国語教育研究機構教授
田尻 悟郎先生

■実践発表

家庭教育実践事例集
『愛の記録』への取り組み
茨城県 PTA 連絡協議会

「世代間交流事業」を通して
茨城県交通安全母の会連合会

読む力を育てる学習指導の在り方
ー物語文・説明文の指導を通してー
鉾田市立鉾田小学校教諭　山口　文子

花いっぱい運動の集い

11月17日、茨城県フラワーパークにおいて約100名の方に参加をいただき、「花いっぱい運動の集い」を開催しました。

集いでは、今年度の花いっぱい運動定着化促進事業において支援を認定された23団体・13学校に対して「認定書」及び「支援金目録」、花壇に設置する「認定花壇看板」を贈呈しました。

また、今年度支援認定された下圷三世代交流団体（城里町）と昨年度支援認定された鉾田市立旭東小学校の2団体から、日頃の花いっぱい運動について事例発表していただき、参加者の花づくりの参考としていただきました。

終了後には交流会を開催し、昼食をとりながら、相互に交流し親睦を深めていただきました。

ネットワーカー活動紹介

常陸大宮市ネットワーカー協議会

設立：平成19年8月　会長：木村　勉　会員数：47名

町村合併に伴い市内（大宮・山方・美和・緒川・御前山）を一つにまとめるべく設立準備会で協議をかさね、8月10日に『常陸大宮市ネットワーカー協議会設立総会』を市役所会場で開催しました。

私どもは歴史的伝統のあるわがまち、自然環境の豊かなこの地域に誇りをもっています。本協議会は、新しいまちづくりのために、そのひとこまを担っていきたいと考えています。

地域活性化の活動をすることにより、生きがいを感じ良き市民であり、良き県民である誇りをもちたいと思います。

12月8日には「ネットワーカー活動推進大会県北・県央・鹿行ブロック」を緒川総合センターで開催しました。

古河市ネットワーカー協議会

設立：平成19年9月　会長：舟本　巌雄　会員数：64名

平成17年9月12日に、古河市、総和町、三和町の三市町が合併して新生「古河市」が誕生しました。

合併以前から三地区においてネットワーカーの方々はそれぞれの地域においてさまざまな活動を行ってきました。

合併をしたことを契機に、それぞれの地区の活動は従前どおり行っても、なんとか組織体制は統一できないか、また、平成20年度には「ネットワーカー活動推進大会県南・県西ブロック」が古河市で開催される予定となっているため、そのためにも一体となった活動をしてはどうかと意見があり、三地区のネットワーカーの代表者による会議を3回行いました。代表者の方々には、活発な意見を出していただき、設立総会に向けての準備を行いました。

平成19年9月23日にネットワーカー多数参加のもと設立総会を開催し、承認されました。

今後は、新しい組織として積極的に事業展開を試みますが、当面は各支部ごとに既存の活動を継続し、また、各支部との情報交換をしながら緩やかな転換を図っていく予定です。

ネットワーカー募集中!!

大好き いばらき 県民運動の地域推進員を「ネットワーカー」と呼んでいます。

「ネットワーカー」の委嘱は平成8年度から実施しており、現在、県内すべての市町村で約1,500名の方々が活動しています。

ネットワーカーの役割としては、

1 県民運動の趣旨や情報を地域に発信していく

2 県民会議の実施する様々な活動に参加するとともに、県民運動を地域の方へ広める

3 現在実践している地域活動を、より一層活性化していく

4 地域の団体同士の連携を深めるなど、地域の人たちをつなぐ連携・調整役になる

などがあります。

現在、大好き いばらき 県民会議では、この地域推進員「ネットワーカー」となって活動いただける方を募集しています。ネットワーカーには、市町村からの推薦を受け、委嘱を受けることができます。任期は３年ですが、再委嘱も可能です。

ネットワーカーの活動を行っていただける方、県民運動に関心のある方は、ぜひ各市町村の県民（市民）運動担当課、または大好き いばらき 県民会議 事務局までお問い合わせください。

大好き いばらき 県民運動 活動紹介

大好き いばらき エコライフ運動キャンペーン

大好き いばらき 県民会議では「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2007」「大好き いばらき 県民まつり・ねんりんピック茨城2007」に参加し、「大好き いばらき エコライフ運動キャンペーン」を実施しました。参加者の皆さんには、「1人、1日、1kgのCO_2削減」を目標とする、「私のチャレンジ宣言」に登録していただき、毎日の生活の中で1人ひとりが、地球環境に優しい生活（エコライフ）の実践を心がけるよう、地球温暖化防止に向けた協力を呼び掛けました。

大好き いばらき 県民まつり ねんりんピック茨城2007

11月10日(土)～12日（月）

大好き いばらき 県民まつり・ねんりんピック茨城2007（ひたちなか市総合運動公園）において、パネルによる県民運動の紹介や、1人1日1kgのCO_2削減を目指す「私のチャレンジ宣言」の登録呼びかけを行いました。

10日・11日はあいにくの天気でしたが、3日間で延べ2,124人の方が登録されました。すでにCO_2削減を行っている方はより一層の実践を，そうでない方もこのチャレンジ宣言をきっかけに，CO_2削減を含めて環境に対する意識を高めていただけたことと思います。

霞ヶ浦環境 科学センター夏まつり

8月25日(土)

霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)で開催された「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり２００７」に参加し、「大好き いばらき エコライフ運動キャンペーン」を実施しました。大好き いばらき 県民会議のブースには、約900人の方が足を運んでくださいました。また、玉造・延方の生活学校の皆さんも一緒に参加して、牛乳パックを再利用したポケットティッシュ入れやブーメランの作成体験コーナーを実施し、子どもたちに大変好評を得ました。参加者の皆さんは楽しみながら、資源の大切さについて理解を深めていました。

ひぬま流域クリーン作戦

7月28日(土)

クリーンアップひぬまネットワークとの共催により、涸沼湖畔にて「ひぬま流域クリーン作戦」を実施しました。

早朝から、涸沼自然公園駐車場に、涸沼流域市町村の住民など約300名が集合し、親沢公園までの往復6Kmコースと広浦公園までの往復4Kmコースの二手に分かれて、涸沼湖畔のゴミ拾いを行いました。今年は、ガールスカウトやボーイスカウトの子どもたちや、中学生のボランティアの参加も目立ちました。

参加者の皆さんは、暑さの厳しい中、燃えるゴミ、燃えないゴミ、自転車のかごやダイビングの酸素ボンベなどの粗大ゴミまで拾うなど、涸沼湖畔の清掃に熱心に取り組むかたわらで、豊かな涸沼の自然にも親しんでいました。

平成19年度 茨城県表彰を受賞！

納場地区コミュニティ

小美玉市の納場地区コミュニティ（代表／川島先則氏）は豊かで楽しい地域づくりを目指して、住民の意思及び創意工夫による主体的なコミュニティ活動を積極的に展開し活動してきました。

このたび、活力ある地域社会の形成に寄与した功績が評価され、11月13日に、平成19年度茨城県表彰を受賞されました。今後も更なる活躍が期待されます。

INFORMATION

投稿記事を募集しています！

広報誌「大好き いばらき」では、皆さまからの投稿記事を募集しています。
地域で行われている活動をPRしてみませんか？
詳しくは、ホームページまたはお電話で！

平成19年度 新規入会の団体会員紹介

下記の団体が新たに会員登録されました。

- □有限会社エスピー研究所　□株式会社松井建設
- □株式会社都市計画センター茨城事務所
- □鹿島セントラルホテル　□鹿島臨海鉄道株式会社
- □鹿島埠頭株式会社　□株式会社ひたちなかテクノセンター
- □株式会社茨城ポートオーソリティ　□アシストプロ株式会社

新潟県中越沖地震災害 義援金の報告

８月９日（木）県庁生協ひばりで開催しました「大好き いばらき ふれあいのつどい」において、参加者からの義援金 22,117円を新潟県共同募金会を通じて被災者の方々にお送り致しましたので、お礼とともにご報告致します。ありがとうございました。

大好き いばらき 県民会議
〒310-0011　水戸市三の丸1-5-38　茨城県三の丸庁舎2F
TEL029-224-8120 FAX029-233-0030
URL　http://business2.plala.or.jp/daisuki/
E-mail　daisuki@atlas.plala.or.jp

〒310-0011　茨城県水戸市三の丸1-5-38　茨城県三の丸庁舎2F
TEL 029(224)8120

グリーンマーク
自然環境保護のため再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK
大豆油インキ
揮発性VOCの発生が少ない大豆油インキを使用しています。